

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 58-217868A
 (43)Date of publication of application : 17.12.1983

(51)Int.Cl.

F16K 5/20

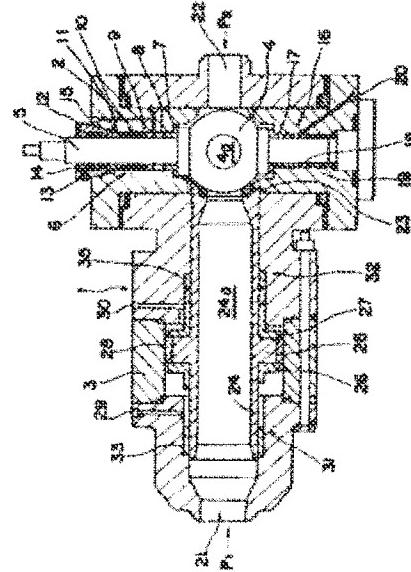
// F16K 25/00

(21)Application number : 57-100839 (71)Applicant : KOBE STEEL LTD
 (22)Date of filing : 12.06.1982 (72)Inventor : BEPPU KOICHI

(54) BALL VALVE**(57)Abstract:**

PURPOSE: To reduce erosion and lower an opening and closing force, by providing a spherical valve element rotatably with a minute clearance in a valve element housing and providing a cylindrical valve seat piston in a valve seat housing so that the piston can slide along a fluid passage.

CONSTITUTION: A spherical valve element 4 mounted on a drive shaft 5 is provided in a valve element housing 2 so that a minute clearance is kept between the valve element and the inside surface of the housing. A cylindrical valve seat piston 24, which functions as a valve seat for the spherical valve element 4, is provided in a valve seat housing 3 so that the piston can slide in the axial direction. To open or close a valve, pressure liquid is first supplied through a feed/drain port 30 to act to a flange 25 on the peripheral part of the valve seat piston 24 to move the piston back out of contact with the valve element 4 and the valve element is thereafter turned by the drive shaft 5. After the valve element is turned, pressure liquid is supplied again through a feed/drain port 29 to move the valve piston 24 forth into contact with the valve element 4 to perform sealing.



① 日本国特許庁 (JP) ② 特許出願公開
 ③ 公開特許公報 (A) 昭58-217868

④ Int. Cl. ³ F 16 K 5/20 // F 16 K 25/00	識別記号 厅内整理番号 7711-3H 7711-3H	⑤ 公開 昭和58年(1983)12月17日 発明の数 1 審査請求 未請求
---	--------------------------------------	--

(全 3 頁)

⑥ ポールバルブ

西宮市松ヶ丘町10-18

⑦ 特 願 昭57-100839
 ⑧ 出 願 昭57(1982)6月12日
 ⑨ 発明者 別府紘一

⑩ 出願人 株式会社神戸製鋼所
 神戸市中央区藤沢町1丁目3番
 18号
 ⑪ 代理人 弁理士 青山篤 外1名

明細書

1. 発明の名称

ボールバルブ

2. 特許請求の範囲

(1)弁体ハウジングと弁座ハウジングとからなる弁本体と、弁体ハウジング内にその内面との間に微少間隙をおいて回動可能に配設された球状弁体と、弁座ハウジング内にその流路方向に回動可能に配設され前記球状弁体に当接可能なシリンダ状弁座ピストンとからなることを特徴とするボールバルブ。

3. 発明の詳細な説明

本発明はボールバルブ、特に、濾形物粒子を含有する液体の流れを制御するのに有用な新規な構造のボールバルブに関するものである。

一般に、石炭液化プロセスにおける石炭液化生成物溶液のように濾形物粒子や溶解ガスを含有する高圧液の流れをボールバルブで制御する場合、弁の前後の差圧による弾力をシール部に受けた状態での開閉となるため、大きな駆動力を必要とし、

しかも、弁の開閉動作によりシール部に濾形物粒子を巻き込み、シール部に摩擦を生じ、液体の流動時や、弁の前後に差圧のある状態下での開閉時に液体の通過面積を減少させ、流量を上昇させること等のため弁の接液部材のエロージョンが激しくなる。また、溶解ガスのフラッシュや乱流状態、衝突現象等もエロージョンを激しくさせるという問題があった。

本発明は、このような問題を解決し、濾形物粒子や溶解ガスを含有する液体の流れの制御に使用してもエロージョンの発生が著しく少なく、小さな駆動力で開閉しうるボールバルブを提供することを目的とするものである。本発明のボールバルブは、弁体ハウジングと弁座ハウジングとからなる弁本体と、弁体ハウジング内にその内面との間に微少間隙をおいて回動可能に配設された球状弁体と、弁座ハウジング内にその流路方向に回動状態に配設され前記球状弁体に当接可能なシリンダ状弁座ピストンとからなることを特徴とするものである。

(1)

(2)

以下、各部の図面を参照して説明する。

図において、1は弁本体で、弁体ハウジング2とシリンド状弁座ハウジング3とからなり、弁体ハウジング2内の流路と弁座ハウジング3内の流路は同軸上に形成されている。弁体ハウジング3内には駆動軸5に駆動された球状弁体4がハウジング内面との間に微少間隙をもつて回動可能に配置され、駆動軸5と弁体ハウジング2との間はシール機構6、13によりシールされている。13は流路である。シール機構6はスリーブ7、ランタンリング8、スペーサーリング9、グランドパッキン10、パッキン押え11、パッキングランド12、パッキン13、パッキン押え14からなり、弁体ハウジング2に穿設されたフランジング液供給孔15からクリーンな液体を出口22側の液体の圧力 P_2 より若干高い圧力でランタンリング8に供給してフランジングさせることにより圓形物粒子が嵌入するのを防止している。他方のシール機構16はスリーブ17、ランタンリング18、シールリング19からなり、フランジング液供給

(3)

駆動液供給孔30からの供給圧の最低値を $P_2+\alpha$ にして、駆動液によりフランジングさせている。なお、フランジング液と駆動液は同一のクリーンな液体例えば、バルブ内を流れる液体が石炭液化生成物溶液や石炭スラリーの場合、それと混合されても支障をきたすことのない石炭スラリ製造用溶剤、あるいは石炭液化して得た分離液などを使用してもよい。バルブを開にする場合、駆動液供給孔30からの駆動液供給圧 $P_2+\alpha+\beta$ が $P_1+\alpha$ よりも高くなるようにし、それによって、まず、弁座ピストン24が図の左方へ移動し、球状弁体4と弁体ハウジング2の内面との間に微少間隙を開放させて、入口21側と出口22側とを連通させ、次いで、駆動軸5で球状弁体4を回転させればよい。

以上の説明から明らかのように、本発明に係るボールバルブは、弁体4と弁座ピストン24を離した状態で回動させるため、駆動力が小さくすみ、また弁作動によるシール部への異物の巻き込みなどに起因するエロージョン、シールの損傷、

(5)

孔20からクリーンな液体を供給するようにしている。

弁座ハウジング3内には、球状弁体4に対し弁座として機能し、シールリング23を一端側に有するシリンド状弁座ピストン24がその軸方向に搬動可能な配設されている。この弁座ピストン24はその軸方向に孔路24aを、またその中央外周部にフランジ25を有し、シール固定部材26、27で固定されたシールリング28で弁座ハウジング3との間をシールされ。駆動液供給排孔29、30から駆動液が供給、排出され、給排孔30から供給される駆動液の供給圧力を変えることにより、弁座ピストン24が往復駆動させられる。弁座ピストン24と弁座ハウジング3との間に、弁内を流れる液体中の圓形物粒子が進入し、それらが摩耗するのを防止するシール機構31、32が配設されている。33、35はシールリングで入口21側の液体の圧力を P_1 、出口22側の圧力を P_2 ($P_1 > P_2$)とすると、図示の閉状態では、駆動液供給排孔29からの供給圧の最低値を $P_1 + \alpha$ 、

(6)

気密圧の低下がなく、しかも、弁開時の大流量は配管の直径と同一にでき、障害物や屈曲部がないので滑らかな液体となり、エロージョンの発生を著しく少なくできる他、入口側と出口側の差圧をなくしてから開閉できるので、配管系に衝撃を与えることがないなど優れた効果を有する。

4. 図面の簡単な説明

図は本発明のボールバルブの一実施例を示す断面図である。

1…弁本体、2…弁体ハウジング、3…弁座ハウジング、4…球状弁体、23…シールリング、24…弁座ピストン。

特許出願人 株式会社神戸製鋼所

代理人弁理士 齋藤 葉加1名

